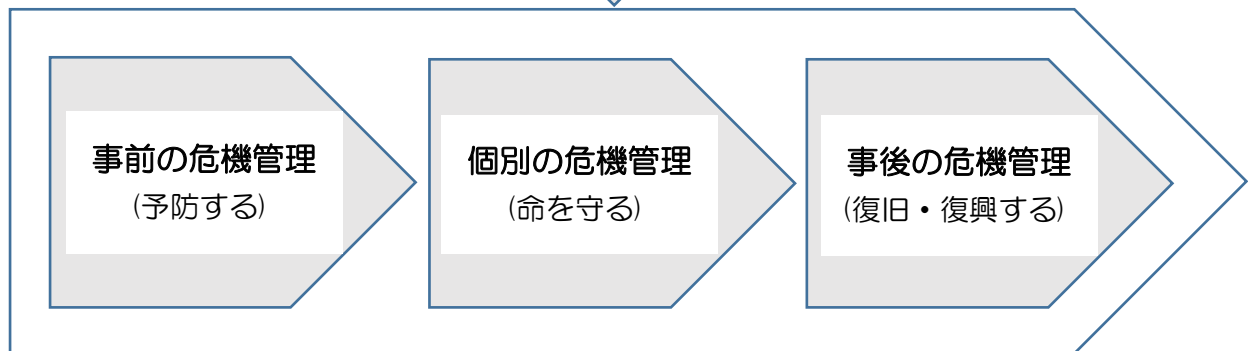


《学校における危機管理》

実際の対応時は、マニュアルを見る余裕がありませんが、教職員の適切な判断と指示が必要です。事前に全教職員がしっかりと理解しておくことが大切です。

「事前の危機管理」がその後の対応全てにつながります。
いつ起こるか分からない事故にきちんと備えることが重要です。

《危機管理の三段階》



各学校園における「危機管理マニュアル」見直し・改善のポイント

1. 各学校の実情（学校の立地する環境、学校規模、児童生徒等の年齢や通学の状況等）に応じて想定される危険を明確にし、危険等発生時の対処方法を検討すること。
2. 事前・発生時・事後の三段階の危機管理を想定して危機管理マニュアルを作成し、安全管理と安全教育の両面から取組を行うこと。
3. 全ての教職員の役割分担を明確にし、共通理解を図ること。
4. 家庭・地域・関係機関と連携して児童生徒等の安全を確保する体制を整備するとともに、協働して危機管理マニュアルの作成や避難訓練等を行うこと。
5. 作成した危機管理マニュアルは、訓練等を基に検証し、実際に機能するかどうか、専門家の指導・助言も踏まえ、定期的に見直し・改善を行うこと。